

中四国横断自動車道の開通に伴う企業意識の変化について

岡山大学環境理工学部 正 員 阿部宏史

1. はじめに 国土審議会によって策定が進められている新しい全国総合開発計画では、推進方式を「参加と連携」とし、実現のための施策として新たな国土軸と地域連携軸の形成を提案している。地域連携軸とは、地方都市同士の連携を高めることによって地方圏の機能強化や個性化を目指すものであり、平成9年3月15日に全線開通した中四国横断高速道は、東中四国における地域連携を促進する基幹的インフラとして今後の活用を期待されている。

高速道路整備は、短期的には観光・レクリエーションや買物などの日常生活における行動を変化させ、中・長期的には企業活動を広域化させることによって、地域経済の再編を促す。

本研究では、高速道路整備効果のうち後者の企業活動への影響に着目し、岡山県内事業所へのアンケート調査によって、中四国横断道の開通に伴う企業意識の変化と今後の地域整備課題を分析した。

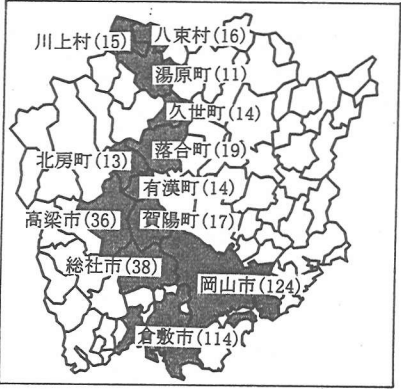


図1 アンケート調査対象12市町村 (()内は有効回収数)

表1 アンケート調査項目の概要

フェイスシート項目	本社所在地、事業開始年次、業種、活動エリア、資本金、従業員数、等
質問項目	①現在の高速道路利用について -利用有無、路線、利用理由、等
	②中四国横断道の利用について -期待有無、利用有無、利用目的、活動変化、利用課題、等
	③開通後の広域拠点施設の利用 -港湾、空港、研究施設、流通センター等
	④開通後の新規事業への進出
	⑤今後の地域整備課題 -交流促進策、インフラ整備課題、等

表2 調査対象事業所の属性(431事業所)

本社所在地 構成比		業 種 構成比	
岡山県内	85.6%	基礎素材型製造	6.7%
岡山県外	14.4%	加工組立型製造	10.9%
活動エリア 構成比		生活関連型製造	12.5%
岡山県内	39.4%	消費財卸売	6.3%
中国	15.5%	資材卸売	5.1%
四国	7.9%	小売	14.6%
関西	10.7%	運輸	8.1%
全国	20.0%	対事業所サービス	7.9%
その他	8.1%	対個人サービス	10.7%
(注)複数選択可		建設	9.7%
従業員数 構成比		金融保険不動産	5.3%
～30人	43.2%	通信	0.7%
30～100人	31.3%	電気ガス水道熱	1.4%
100～300人	15.5%	資本金 構成比	
300人～	10.0%	～1000万円	16.7%
		1000万～1億円	58.0%
		1億円～	25.3%

2. 使用データ 本研究で用いるアンケート調査は、中四国横断道開通直前の平成9年1月に、岡山県商工会議所連合会を通じて、岡山県内の横断道沿線12市町村を対象として実施したものである。図1に12市町村の位置とアンケート調査票の有効回収数を示す。調査は各市町村の商工会議所又は商工会の会員事業所を対象として郵送法によって実施し、431票の有効回答を得た。なお、配布数に対する回収率は約67%であった。調査票の内容は、表1に示すように、事業所属性に関するフェイスシート、現在の高速道路利用、中四国横断道路の利用、開通後の広域拠点施設の利用、開通後の新規事業進出、及び今後の地域整備課題に関する約20項目で構成されている。

3. 調査対象事業所の特徴 表2はアンケート調査項目のうち、事業所属性に関する単純集計の結果である。調査対象事業所の本社は85.6%が岡山県内にあり、岡山県内企業が多い。しかし、活動エリアが岡山県内の事業所は39.4%にとどまり、岡山県外で広域に活動している事業所が多い。業種、資本金、従業員数の3項目については、特に大きな偏りは見られない。

4. 中四国横断道に対する意識 図2は、「現在の高速道路利用の有無」、「中四国横断道開通に対する期待」、「横断道開通後の利用予定」、「開通後の新規事業への進出」の4項目に関する単純集計の結果をまとめたものである。横断道に対して「期待有り」とする事業所数は全体の74.9%の高い割合を占めるが、開通後に「利用予定有り」とする事業

所の割合は60.1%に低下し、さらに「新規事業への進出予定有り」は8.6%に過ぎない。以上の結果から、現状では中四国横断道開通に対する企業の期待は大きいものの、具体的な利用については十分に考えていない企業が多いと言える。

5. 中四国横断道の利用課題 次に、横断道への期待、利用予定、新規事業進出の3項目と、別途質問した高速道路の利用課題(5項目)及び今後の地域交流・連携促進策(8項目)とのクロス集計によって、中四国横断道の利用促進に向けての課題を検討した。表3～4に集計結果を示す。

表3の結果を見ると、選択率が最も大きい項目は「高速道路料金が高い」であり、「出荷・販売地との直結」がこれに次いでいる。これら2つの項目について、「横断道に期待する～しない」、「横断道を利用する～しない」、「新規事業を考えている～いない」の選択肢間で選択率を比較すると、「高速道路料金が高い」は「横断道に期待する」、「利用する」、「新規事業を考える」と答えた事業所の選択率が高く、逆に「出荷販売地との直結」は「横断道に期待しない」、「利用しない」、「新規事業を考えない」と答えた事業所の選択率が高い。以上のことから、横断道を利用しない事業所にとっては「出荷販売地との未直結」が最も重要な課題であり、横断道を利用する事業所にとっては「高速道路料金の高さ」が最も大きな課題と言える。

一方、表4のクロス集計結果は、横断道の利用課題に関する直接的な質問ではないため、表3のような選択肢間の傾向は明確でない。しかし、「高速道路料金の値下げ」と「瀬戸大橋料金の値下げ」が50%以上の高い選択率になっており、高速道路料金の高さが自由な企業活動を妨げる要因になっていることが分かる。

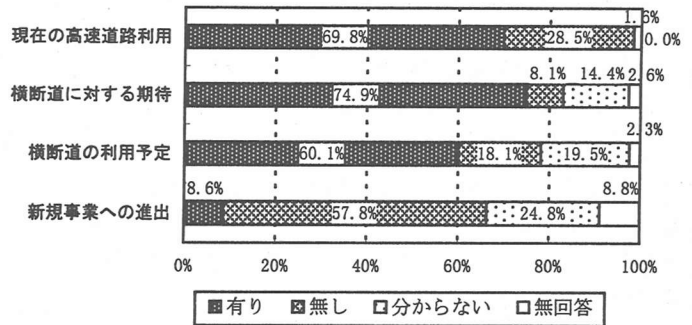


図2 中四国横断道に対する企業意識(沿線341事業所)

表3 中四国横断道への期待、利用の有無、新規事業進出と高速道路利用課題とのクロス集計

		原料調達地との直結	出荷販売地との直結	相手市場の魅力薄	高速道路の料金高	高速道路へのアクセス
横断道に対する期待	期待する (323事業所)	3.4%	9.6%	6.2%	41.2%	9.6%
	わからない (62事業所)	4.8%	19.4%	9.7%	24.2%	4.8%
	期待しない (35事業所)	5.7%	31.4%	17.1%	31.4%	2.9%
横断道の利用	利用する (259事業所)	1.9%	5.0%	7.7%	49.0%	10.8%
	わからない (84事業所)	8.3%	22.6%	7.1%	25.0%	4.8%
	利用しない (78事業所)	6.4%	30.8%	9.0%	14.1%	2.6%
新規事業への進出	考える (37事業所)	5.4%	8.1%	10.8%	64.9%	8.1%
	わからない (107事業所)	1.9%	14.0%	4.7%	39.3%	10.3%
	考えない (249事業所)	4.0%	14.1%	8.4%	34.9%	8.4%

(注) 高速道路の利用課題は複数選択可として調査した。

表4 中四国横断道への期待、利用の有無、新規事業進出と今後の地域交流・連携促進策とのクロス集計

		地域の意識醸成	縦割行政の解消	高速道路料金値下げ	瀬戸大橋料金値下げ	地域情報の提供	地域エゴの解消	地域の魅力づけ	交流連携事業促進
横断道に対する期待	期待する (323事業所)	14.9%	14.2%	64.7%	67.5%	33.4%	8.7%	39.0%	30.0%
	わからない (62事業所)	12.9%	17.7%	54.8%	71.0%	24.2%	9.7%	37.1%	17.7%
	期待しない (35事業所)	5.7%	28.6%	60.0%	68.6%	14.3%	8.6%	37.1%	22.9%
横断道の利用	利用する (259事業所)	14.3%	17.0%	69.1%	70.7%	35.5%	10.0%	36.7%	27.8%
	わからない (84事業所)	14.3%	9.5%	61.9%	67.9%	21.4%	7.1%	41.7%	23.8%
	利用しない (78事業所)	12.8%	19.2%	42.3%	59.0%	24.4%	6.4%	39.7%	30.8%
新規事業への進出	考える (37事業所)	16.2%	18.9%	73.0%	67.6%	29.7%	10.8%	24.3%	37.8%
	わからない (107事業所)	15.0%	15.0%	73.8%	67.3%	29.9%	8.4%	46.7%	30.8%
	考えない (249事業所)	13.3%	16.5%	58.6%	70.7%	32.5%	8.8%	39.8%	26.5%

(注) 高速道路の利用課題は複数選択可として調査した。